

全国棚田サミットに
むけて

第一回全国棚田サミットにおいて「万里の長城も偉大な文化遺産であるが、日本の棚田もすばらしい文化遺産だ」と語られた司馬遼太郎氏の話に感銘しました。折りしも、四谷の千枚田を後世に残したい地元の思いがNHK「日本まんなか紀行」の放映がきっかけとなり、鞍掛山麓千枚田保存会が発足し、千枚田保存のためのアンケート、調査研究など、保全活動が続けられ、平成十一年には「日本の棚田百選」に認定、続いて地元念願の「ふるさと水と土ふれあい事業」による棚田の構造に合致した農道整備事業が採択されるなど、保

全意欲が高まりました。

さらに、中山間地域等直接支払い制度の創設は千枚田の耕作、復田意欲の向上となり、田植え体験の開催、地元有志の千枚田を耕す会「田吾作」による、こだわりの棚田米での千枚田餅つき大会など、山村と都市の交流の輪が広まってまいりました。

昨年、第十一回棚田サミットが鳳来町開催に決定され、さらに、平成十五年度農村アミニティ・コンクールにおいて千枚田のある四谷地区が農林水産大臣賞を受賞するなど朗報続きです。表彰の趣旨は、農山村特有の美しい豊かな自然環境や景観、歴史、文化、風土等を基盤に、ゆとりと潤い

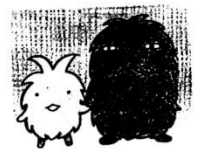
とやすらぎに満ちた居住快適性の確保のため、地元住民の自主努力を通じて保全、形成を図ることにより、農山村の振興と都市と農山村の共生、対流促進につながることを目的としており、今回の受賞はサミット開催に向けて大きな自信と誇りにつながると信じます。

さて、平成十七年は「自然の叡智」がテーマの万博開催年であり、東三河では「穂の国森林祭」が愛・地球博の地域連携プロジェクト事業として開催されるため、その一環として全国棚田サミットを通して森林、農地が持つ他面的機能や公益性の理解を深め、循環型システムをめざす流域社会の新たな交流の機会とし、上下流一体化をめざしたいと考えています。

全国棚田サミットの成功に向けて地元をはじめとす

る関係各位のご理解、ご協力を切にお願いいたします。

鳳来町長 下江利幸



愛・地球博
AXPO
2005 AICHI
JAPAN



棚田サミット
2005 鳳来町
四谷千枚田

千枚田勅選歌碑

四谷の千枚田の中腹の千枚田売店から五十メートルほど上った道端の巨岩に

鞍掛の

水ひく丘の千枚田

代かくころが

夜目にもしるし

と詠まれた千枚田勅選歌碑があります。

この歌碑は昭和五十四年、宮内庁歌会始に御題「丘」で豊橋市植田の山本太一さんが親戚の長谷川儀一さん宅(連合字方瀬)を訪れたおり、景観の素晴らしい千枚田に魅せられ、度々訪れました。そして千枚田の耕作

者金古浩一さんの祖父(誠一さん)から千枚田の四季折々の話を元に詠進して選(佳作入選)に預かった短歌(を山本太一さんがお世話になった金古さんの上坂の巨岩に発起人 鮑彫短歌会、協賛 鳳来町文化協会、豊橋植田文化協会により奉られた)ものです。

長い歴史を有する宮中の歌会始(歌御会始)は世界に類のない国民参加の文化行事で、短歌は日本のあらゆる伝統文化の中心をなすものといわれます。この短歌が日本国民のみならず海外からも寄せられ、これを披講する宮中の年中行事が皇室と国民の心を結ぶものとなつて居ることは、誠に喜ばしいことでもあります。

千枚田で句会

昨年の十月二十八日、大手門句会第十七回吟行記「景観素晴らしき棚田」と題して岡崎市在住の千葉正人さんが東海愛知新聞に掲載されました。

句会は九月二十六日、午前は千枚田で、午後は身平橋集会場において俳句同好会の方達で行われました。

当日詠んだ俳句の一部を紹介します。

鞍掛山の秋めきて千枚田

正人

沢蟹が畦道横切る千枚田

絹枝

蕎麦の花咲いて日陰る千枚田

葵城

鞍掛の野面石垣赤のまま

サダ子

千枚田瀬音に揺るる

絹枝

要珠沙華

昇

秋棚田居たいと思う暫し刻

千枚田のタニシ

頑張る(二題)

長篠合戦まつり

天正三年、長篠合戦において武田勝頼が長篠城を攻め囲み兵糧攻めの作戦をとりました。奥平信昌達は徳川の援軍必着を信じ、必死に城を守りましたが、そのうち食糧も尽き、お城の水溜まりや沢にあつたタニシやセリを食べて飢えを凌いだと云います。

毎年、五月五日には「長篠合戦まつり」が盛大に行われております。その祭りには籠城兵達が飢えを凌いだと云われるタニシをお供え物として四谷の千枚田のタニシが慣例で奉られるようになりました。

たにし祭り

奥平信昌はその後の活躍が認められ九州の大分県で大きなお城(中津城・十万里)を持つまでに出世しました。

した。

信昌は長篠城に於いて飢えから助けてもらったタニシの恩を忘れることなく、感謝の意から神殿に奉るようになりました。

毎年五月、中津市で行われる「たにし祭り」には奥平信昌ゆかりの地である鳳来町も参加し、四谷の千枚田で育ったタニシを献上しています。

鳳来寺のシンボル

傘杉にしめ縄

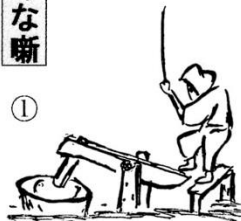
鳳来寺山表参道の石段に登ること三百二十段目に樹齢八百年、幹周囲七・五メートル、樹高日本一の巨木「傘杉」に十二月二十九日、四谷の千枚田で栽培された餅米のわら約百束を使って長さ約八メートル、太さ約二十センチの大しめ縄を飾り付け、暮れ行く一年の感謝と新年の多幸を願いました。

インターネットで千枚田を検索

ホームページで千枚田だよりが発信されています。アドレスは<http://www.town.hourai.aichi.jp/>です。また、アドレスを漢字で「鳳来町」と入力し、「千枚田」をクリック、そして「千枚田だより」をクリックすれば「四谷の千枚田だより」がヒットします。なお、「鳳来町 四谷千枚田」で検索すれば多くの千枚田の情報が発信されています。

げなげな斬

①



大代の山崩れの時、どこかの「ポットリ」の白が千枚田の麓、若宮様の渚まで流れ、長い間野ざらしにされていきました。

その白はもったいないということで平間(屋号)で「からうす」の白に長い間使われていたと云われます。

湧き水

▽今年「さる年」、漢字で申(シン)、動物の猿(さる)をする)とは何の関係もないそう。本義は稲妻、稲妻は光るたびに初の中の米を育てるといふ。申は草木が地面を破って萌出するのを象っているということから、甲申(六十年に一度)の今年は千枚田の稲もぐわいよく育つてくれることであろう。

▽千枚田も今は冬眠状態。お正月だといって酒ばかり喰らっているのは体に悪いと田圃を耕しに出かけた。この真冬の寒い時に千枚田に出ているのはバカな自分一人と思っていたら家族連れやハイカーがけっこう遊歩道を散策していた。これも「水と土ふれあい事業」やサミット招致のおかげと感謝、感謝 (舞)

平成十六年一月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会